

福大病院ニュース

診療日案内

診療科名	総合診療科	血液・糖尿病科	消化器科	腎臓内科	循環器科	呼吸器科	神経内科	健康管理科	精神神経科	小児科	小児外科	外科第一	外科第二	整形外科	形成外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科(メインクリニック)	歯科口腔外科	リハビリテーション部
	診療日	毎日	毎日	毎日	月・火・水・木・金	毎日	月・火・水・木・金	毎日	毎日	※予約制	毎日	毎日	月・水・金	火・木・土	毎日	※予約制 月・木	月・水・金	火・木	毎日	※予約制 月・火・水・木・金	火・木・土	毎日※水・土は再診のみ	月・水・金	火・木・土	月・火・水・木・金	月・水・金	毎日	

【診療受付時間】 (休日除く)

※休診日：日曜・祝祭日、盆休(8月15日)、年末・年始(12月29日～1月3日)
 初診：(月～金) 8時20分～14時 (土) 8時20分～11時
 再診：(月～土) 8時20分～11時 ※産婦人科の初・再診受付は8時20分～11時

交通のご案内



六本松・別府2丁目バス停から
 14番、18番、114番、140番で福大病院経由のバスにご乗車ください。(所要時間 約15分)

西新から
 脇山口バス停で、95番の福大病院経由のバスにご乗車ください。(所要時間 約30分)

自家用車でご来院の方へ

九州自動車道、都市高速を利用する場合
 九州自動車道を利用される場合、北九州方面の方は福岡I.Cで、久留米方面の方は太宰府I.Cで、それぞれ都市高速に乗り換えて、百道RPで降りてください。そのまま国道263号線を直進し、干隈三叉路で左折、七隈四ツ角を右折して進むと右側に病院が見えてきます。

国道202号線バイパスを利用する場合
 ※ 六本松方面から来られる方は、別府・中村学園大学前の交差点を左折し、直進して油山方向へお進みください。七隈四ツ角を進むと右側に病院が見えてきます。
 ※ 原方面から来られる方は、荒江四ツ角を右折し、干隈三叉路を左折、七隈四ツ角を右折し進むと右側に病院が見えてきます。

国道263号線を利用する場合
 ※ 荒江方面から来られる方は、干隈三叉路で左折、七隈四ツ角を右折し進むと右側に病院が見えてきます。
 ※ 曲淵方向から来られる方は、野芥四ツ角を右折して直進し、病院南口より入ると病院が正面に見えてきます。

いずれの方向からも、「福大病院入口」の表示があります。
 ※ 駐車場はございますが、狭いので、なるべくバス・地下鉄などをご利用ください。駐車場は、すべて有料となります。

福岡大学病院

〒814-0180
 福岡市城南区七隈7丁目45-1
 TEL (092)801-1011(代)

発行：医療情報部
 URL：http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/hosp/

地下鉄でご来院の方へ

「福大前」での下車となります。下車後、徒歩1分です。
 改札口を出て右側(2番出口)が福岡大学病院方面となります。定員20人乗りの一般用のエレベーターが設置されています。

※「天神南駅」からご乗車の場合(所要時間 約16分)
 ※「橋本駅」からご乗車の場合(所要時間 約8分)
 ※「福岡空港」、「博多駅」からの場合、「天神駅」で乗りかえます。天神地下街を通過して七隈線「天神南駅」から乗車となります。

バスでご来院の方へ

「福大病院前バス停」での下車となります。

天神から(所要時間 約30分)
 天神コア前バス停(7B)乗り場、あるいはダイエーションツパースプラザ前(9)乗り場からの場合、福大病院経由の14番のバスにご乗車ください。
 天神協和ビル前(10)乗り場、あるいは天神福ビル前(12)乗り場からの場合、福大病院経由の140番のバスにご乗車ください。

博多駅から
 博多駅前バス停(A)乗り場から18番あるいは、福岡交通センター1階(4)乗り場で福大病院経由の114番にご乗車ください。(所要時間 約40分)



福岡大学病院の基本理念

あたたかい医療

- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに応える患者中心の医療の提供



患者さまの権利について

医療は医療者と患者さまとの信頼関係で成り立っています。患者さま一人一人が医療の中心となり、以下の権利と責任(患者さまの権利に関するリスボン宣言)があることを福岡大学病院の職員一同は認識します。

1. 患者さまは常に人間としての尊厳と、差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
2. 患者さまは医師や病院あるいは保健サービス施設を自由に選択し変更する権利があります。
3. 患者さまは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて、十分に説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否の決定を下す権利があります。
4. 患者さまは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
5. 医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。
6. 患者さまは健康について保健教育を受ける権利があり、自分の健康に対する自己責任があります。



眼科診療部長
眼科主任教授
内尾 英一

アレルギー性結膜疾患について

このたび、4月1日付で眼科診療部長に着任いたしました内尾英一と申します。眼科には種々の疾患があり、福岡大学病院眼科ではあらゆる領域の疾患に対応する診療体制になっておりますが、近年増加傾向にあり、社会的問題となっているものにアレルギー性結膜疾患があります。今回はアレルギー性結膜疾患について解説いたします。

アレルギー性結膜疾患とは

アレルギー性結膜疾患は眼におきるいろいろなアレルギー疾患の総称です。アレルギー性結膜疾患の中でも花粉症（図1）、とりわけ春先に生じるスギ花粉症は、毎年非常に多数の方が発症されています。

わが国では約2000万人のアレルギー性結膜炎の患者さんがおられ、その大半は花粉症によるものと推測されております。アレルギー性結膜疾患にはその他に、アトピー性角結膜炎、春季カタル（図2）、巨大乳頭性結膜炎という3つの疾患が含まれています。これらはアレルギー性結膜炎に比べるとはるかに少ないですが、いずれも治療の難しい疾患です。このうち、アトピー性角結膜炎はアトピー性皮膚炎の方に見られる慢性結膜炎をさし、春季カタルは上まぶたの裏側に巨大な乳頭というものがみられる疾患です。どちらもアトピー性皮膚炎の患者さんが増加してくるのに伴って最近増加していると考えられています。



図1. 季節性アレルギー性結膜炎(花粉症)の症例

アレルギー症状が目が多い理由

例えば花粉症は目以外の部分にもアレルギー性鼻炎などの症状が現れますが、目は非常にアレルギーの症状の出やすい場所です。それにはいくつかの理由が考えられます。第一には結膜は直接外界に接しており、抗原が入りやすいことです。第二には、入ってきた抗原成分の中でも、からだとの反応を生じる抗原の蛋白質が目を常にうるおしている涙液によって溶かされやすい性質があります。第三には、結膜には実際のアレルギーの反応をひきおこす免疫細胞がたくさんおり、血管もたくさんあるためからだの方から、次から次へと炎症を起こす細胞が入り込みやすい、といった点があげられます。

アレルギー性結膜疾患の症状

目のアレルギーの症状としては、かゆみが最も代表的なものです。目そのもの以外に、まぶたやまぶたのふちなどの部分がかゆみが現れやすく、かゆばかほど症状が強くなることもあります。次に多いのはごろごろした感じ、「異物感」というものです。

アレルギーの反応によってまぶたの裏側の結膜に粒状のもりあがりがありますが、これが、まばたきの際に黒目(角膜)と接触することによって生じる症状です。小さなゴミが入ったように感じることもあります。涙もよく見られる症状です。目やには、はやり目に比べると多くはありません。一方、春季カタルなどの重症例では、さらに角膜の合併症によって目が痛みを生じたり、角膜の濁りのためにものが見えにくくなる(視力低下)を引き起こすこともあります。角膜の混濁の中には治療を行ったにもかかわらず、白い濁りが残ることもあります(図2)。このような永続的な角膜混濁には現在のところ、残念ながら角膜移植の他には有効な治療法がないのが現状です。



図2. 春季カタルの角膜潰瘍

アレルギー性結膜疾患の治療

目のアレルギーの治療には抗アレルギー薬という薬が主として用いられています。これはアレルギー反応の中で、かゆみやくしゃみなどを引き起こす指令を伝える物質が細胞から血液に出てこないようにおさえる薬です。通常目薬として使用します。症状が強い場合は、ステロイド薬も用いられることがあります。ホルモンの薬であるステロイド薬は、適切に使用すればとてもすぐれた薬ですが、目に緑内障などの副作用が現れることがあるので、使用にあたっては注意が必要です。アトピー性皮膚炎のまぶたの皮膚炎にはステロイド軟膏に加えて、免疫抑制軟膏薬が使えるようになり、治療効果が向上しております(図3)。



図3. アトピー性眼炎に対する免疫抑制軟膏薬治療
A. 治療前



B. 治療後1カ月

おわりに——目のアレルギーと私たち

ここまで述べてきたように、結膜アレルギーは全身のアレルギーの一部であると同時に、目という臓器に特有の特徴が見られます。時期が過ぎれば治るものだけでなくものや専門医の治療を受けないと視力障害を残す可能性のあるものまでさまざまな程度の病気があることをご理解いただければ幸いです。

曜日別外来診療担当医表

平成17年4月1日現在

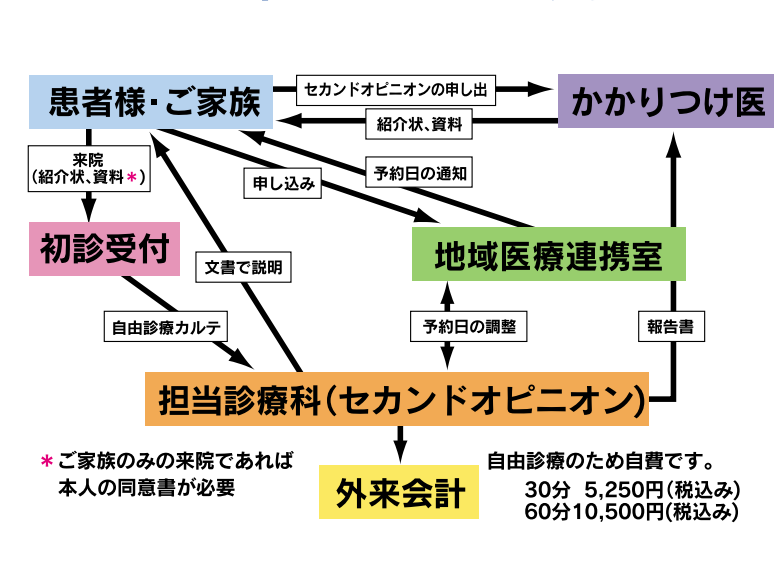
		月	火	水	木	金	土
眼科	初診	担当医		担当医		林	
	再診	内尾・右田・小沢・有田・泉	予約再来	内尾・林・大里・近藤・井上	予約再来	尾崎・木村・ファン・加藤	予約再来

セカンドオピニオン外来 開設いたしました

セカンドオピニオンとは

当院以外の主治医にかかっている患者さまを対象に、診断内容や治療法に関して当院の専門家の意見・判断を提供し、患者さまが治療に際しての参考にすることが目的であり、新たな検査や治療は行いません。セカンドオピニオンは現在の診断・治療に関しての意見を提供することが本来の目的であり、主治医の情報提供書が必要です。

セカンドオピニオンの流れ



申し込み方法

- ① 完全予約制です。お申し込みいただいてからセカンドオピニオン外来*担当診療科・医師と調整し、日時をお知らせいたします。
(※産婦人科、整形外科、リハビリテーション部は行っておりません)
- ② かかりつけ医の紹介状とレントゲン写真などの資料をご持参ください。
- ③ 紹介状については福岡大学病院ホームページからダウンロードできます。
<http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/byouin/download.html>
- ④ ご家族のみの来院については本人の同意書が必要です。
- ⑤ 健康保険は適用されません。30分5,250円、60分10,500円の自己負担になります。
- ⑥ お申し込みは地域医療連携室まで
TEL (092)801-1011 内線2888、2889
FAX (092)862-8622